

---

# 僕たちの六年計画。

ふろーと二式零尾

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕たちの六年計画。

### 【Nコード】

N5357L

### 【作者名】

ふろーと二式零尾

### 【あらすじ】

召喚されたわけでもないし、転生したわけでも無い。

迷い込んだだけ、久遠という少年のほのぼのストーリー

## 一年目パート1（前書き）

筆者は心の病気なので優しくしてください。  
不定期更新です。

## 一年目パート1

### 1日目

どうやら異世界に迷い込んだようだ。

眼が覚めたときは遺跡だった。

そこでナコト写本なるアイテムを入手した。

### 2日目

ナコト写本で生み出した魔法モドキで食事を取っている。

見た目は黒いダークマター、食感は饅頭、味は焼肉。

不思議な食べ物だと思った。まだ遺跡を出れていない。

### 3日目

どうやらこの書は必要なときにだけ呪文が使えるようになるらしい。

恐らくはクトゥルー神話とは何の関係も無いと思う。

何故ならSAN値が減った気がしないから。

今日は女体化の魔法を入手した。飯はダークマター。

### 4日目

女体化しつつ遺跡を練り歩く。

女の子になった気分は清々しいものだった。

女の子になること、それは昔からの夢だった。

何故なら俺が最初に恋をしたのは男の子だったから。

女の子なら誰にはばかられることもなく恋が出来る。

今日もダークマターを食べた。おそらく明日には出られる。

5日目

遺跡を出た。遺跡には沢山のアイテムがあった。

金貨らしきものが六枚。フード付きのコート。

ロングソード。回復薬×7。

他にもまだまだあるのだが持って行けそうに無いので置いてきた。

そうそう俺の名前だがクオン・アカツキという名前だ。

外は草原だった、それはもう広い草原だった。

町は、と言っか集落は見当たらない。

どうしようか？

6日目

結局遺跡に戻った。

遺跡は何故か生物が居ない。危険も無い。

今まで毘すら見ていない。

書に飛行術式を見つけたので、飛行訓練と剣術修行を始めた。

書を使ってこの遺跡を調べてみると結界が張られているらしい。

7日目

今日はダークマターに別の味付けがあることを知った。

卵かけご飯味のダークマターだった。でも食感は饅頭。

剣術鍛錬だが、書から知識を取り込んで効率良く修行中。

飛行訓練は順調。あと三日くらいで旅に出れそうだ。

8日目

遺跡にお客さんが来た。

何でも四人のうち二人しか入れないとかで入り口で立ち往生していたらしい。

話しかけて結界が張られていると伝えたら、

此処は君の所有物か？ と聞かれたので違うと言ったら、

遺跡に入れる二人と一緒に探索を手伝って欲しいとのこと。

何故かと聞いたなら、宝があるのなら君一人で全て取るのは難しいだろう、いくつか残したはずだと言うので。

よく分かりましたねと言っておいた。

時間も遅いので探索は明日にすることにしたらしい。

食事に招かれたのでダークマターを振舞ってみた。

全員食べるのに躊躇していたが俺が美味しそうに食べたら一人一人食べ始めた。

皆美味しそうに食べたおかわりもした。

どこで手に入れたのか聞いてきたから魔力で作り出したと答えた。

食堂の定食の味がすること。

9日目

遺跡を探索するのは女性二人。

おっとり系剣士アリシアさんとクール系魔法使いエイミさん。

この二人と朝から遺跡探索中、でももう終わりそうだ。

遺跡自体書を安置していただだけの代物だからそんなに広くない。

でもなんか拳大の石を見つけて喜んで入り口に戻ってた。

あとで聞いたら爛鋳石という珍しい石だとか。

10日目

お別れするとき、報酬に銀貨二枚もらいました。

一緒に行かないか、と誘われたが断った。

俺は次のダンジョンへ修行に行くことにした。

俺が空飛んでたら皆驚いてた。

#### 13日目

日記を書くのが久しぶりだ。

明日から別の遺跡に入る。

書を使ってダンジョンを探していたら結界の張ってある場所を見つけたのだ。

見た目からして神殿なのだろうが、人の気配はゼロだった。

#### 14日目

あらかじめ書から攻撃術式を取り出し試し撃ちをする。

雷の矢だった。軽追尾と軽貫通の二種類の矢があるようだ。

遺跡に入ると清々しい香りに包まれた。

遺跡探索が楽しくなりそうだ。

#### 15日目

広い。そして深い。



まるで何かの要塞のようだ。

ただいま15階層目。

探査術式を使用したところあと三分の一。

新しいダークマターを手に入れた。醤油の付いた納豆味だった。

16日目

最下層。神々しい後光が差す神様みたいな女性が居た、

難しいことを喋り続けていたが分かりやすく言うと『コ・ヲハラメ』  
だつて。意味分からん。

うん、と答えると満足したのか溶けるように消えた。

きつと成仏したのだろう。

彼女の足元に呪われそうな指輪が落ちてた。

装備した。

17日目

帰る途中見たことの無い宝箱を見つけた。

書を使って調べてみたけど何も無かったので空けた。

中身はSAN値がただ下がりな仮面だった。禍々しい。

装備した。

18日目

仮面を着けたら視界が青に染まった。

暗いところも見渡せる。きっと古代の暗視ゴーグルだったに違いない。

何故か人型のようなものが蠢いているように見える。

きっとさっきの人が成仏して嬉しいのだろう。そっとしておいた。

19日目

遺跡を出たのはいいが次も遺跡？

それだとはつまらない気がする。

常識を学びつつ町を探すことにした

20日目

剣術訓練は毎日ちゃんとやっていますよ？

今日の一般常識。

亜金貨は百万円金貨は十万円、銀貨が一万円、銅貨が千円。

亜銅貨が百円。上級紙幣に白金貨と言つものもあるらしい。額は亜金貨十枚分。

俺が持っているのは金貨と銀貨だな。覚えておかねば。

町は探査魔法で見つけました。

21日目

明日には町に着くだろう。

そうそう忘れてはいけない、今朝盗賊に襲われた。

勢いに任せて息の根を止めてしまったが後悔はない。

何故ならこの世界が弱肉強食であると知っているから。

でも気持ち悪い、二回も吐いた……。

慣れなければ生きていけない。

でも盗賊の所持品は頂いたぜきやつほう！

22日目

町について最初に向かったのはギルド。

書の情報によれば十五歳から仕事をする事ができるとのこと。

ギルドの登録料に銀貨二枚取られた。

後は金貨を崩して宿を取った。

明日から仕事！

23日目

仕事、なんと甘美な響きか。

とりあえず魔物討伐から。

角の生えたウサギを狩りまくった。

雷の矢があまり効かないので炎の矢を放つことに。

肉は美味しかった。

角は書の格納庫に入れた。半分売って半分保存するのだ。

24日目

今日も今日とて魔物退治。

錬金術に必要な薬草と魔物の部位を蒐集。

この世界に来て初めての錬金術。

回復薬沢山作ったよー。

ギルドに置いてもらって宣伝中。

27日目

早くも薬が噂になり始めた。

安価で効力が高めなのが人気の秘密らしい。

俺は所持物品を錬金術に使う際どのような効果をもたらすか知ることが出来る。

角ウサギの角はとある薬草と混ぜて使用するとそこそこの回復薬ができるのだ。

29日目

ギルドから回復薬が欲しいと言われてしまったので大量生産。

昨日から素材をざくざく集めているので難しくは無いだろう。

薬草は雑草のように生えるし角ウサギも大量に出る最もポピュラーな生物らしかった。

頑張ってお金ためて自分のアトリエを作らないと！

30日目

所持金は金貨五枚、銀貨二十枚、銅貨十六枚である。

目標は亜金貨七枚分の工房を入手すること。

そういえばいつ男に戻るんだろう。

食事は味噌汁味の黒い水と卵かけご飯風味のダークマター。

一年目パート1(後書き)

だーくまたー！

## 一年目パート2

### 31日目

学園的依頼が来た。

学園の生徒になって在学している分だけ報酬を払うと言っもの。

授業態度や出席日数、テストの点数などで報酬を上乗せするそうだ。

つまり優秀な卒業生を出して学校の利益にしたいらしい。

優等生として振舞えば報酬が上がるとのこと。

俺が誘われたのは飛行魔法が使える点、それから実戦経験などを積んでおり年も若い等の理由がある。

来週かららしいのでとりあえず受けることに。

### 32日目

錬金術は楽しい。

剣術修行を三日ほどサボってしまった。

錬金術の新たななる材料、流転草とやらを探しに行くことに。

ちなみに今使えるのは小規模な錬金術というか薬の生成である。

薬しか作れない。

33日目

空路で半日ほどの森で泉のある場所に咲いているとか。

蒼い人型がまた沸いてるな……。

いまさらだが少々不気味な気分。

とりあえず仮面をはずすことに。

こ、これは！ 仮面の絵柄が変わっておる。

何故か嬉しくなったので仮面を大事に持ち運ぶことに。

34日目

泉、発見。でも何か禍々しい気がする。

と、思っていたら。

狼の魔物が現われた。

多重詠唱で雷の矢と炎の矢を放つが効果なし。剣もはじく。

一か八かの新規魔法！

水の槍、風の槍、永劫の闇。

よし！ 水の槍、風の槍、多重詠唱。

結果的に言えば勝てたのだが回復薬×7を使い切ってしまった。



あと少し傷が多かったら危なかったかもしれない。

35日目

昨日は大変だったな。

流転草は十分に取れたからいいけど……。

あの青い人型はあれにやられたのかなー。

早く帰らなきゃ。

36日目

剣術修行に回復薬の委託、

流転草を使った魔力回復薬を四個ほど持つ。

ちなみに俺の知識が豊富なのは影で勉強してるからである。

書には新旧ともに膨大な知識が所蔵されているため勉強には困らない。

錬金術に関しては前いた世界で覚えた。

魔法を使っても疲れていないのは魔力が凄まじく高いせい。

本来なら魔法もこの世界に来た時点で使えるはずだった。

魔力が外に出にくい体質さえなければ……。

だが今は書に肉体がリンクしているので魔力を外に出せる。

書はすでに体の一部でもある。

37日目

今日は久々に買い物へ。

寮で使う生活用品や着替えなどを買うことに。

初めて女性下着の店に入った。

なかなかこそばゆい気分とお腹の奥が熱くなる様な感じがした。

服もコートに隠れて分かりにくいが、

寝巻きと言うか下着と言うか、とにかく薄着で露出度の高い服を着ていた。

なので皮のズボンとジャケットを買った。

最後にギルドに向かい学園の休日の日にしか薬を持ってこられないと伝えておいた。

38日目

今日から学校。

昨日のうちに届いた制服である黒いジャケットとスカートとネクタイを装着。

予め渡されていた学生証を片手に寮に行った。

寮母さんに手厚く迎えられ同居人に挨拶することに。

……変態だった。同居人は変態だった！！

誰か百合っ娘止めて〜。

39日目

件の百合っ娘、

アイリちゃんと登校。

この学校の授業は選択式で魔法、錬金術、剣術、槍術、弓術等がありそれを学ぶ。

医学とか薬学なんてのもあるけどね。

教室では長い金髪のイケメン教師が分かりやすく説明してた。リア充爆発しろ。

この学校ではあらゆる分野のエキスパートを生み出すためありとあらゆる授業が存在する。

数が多いので選択に迷ったら気軽に声をかけてほしいとのこと。

今日は授業を選択するだけでお開きとなった。

一年の半分の授業を選択しなければいけない凄く迷ったが。

錬金術と薬学、剣術と医学を学ぶことにした。

40日目

休みなのでクエストに。

爛鉱石一個につき金貨二枚という鉱山クエストだ。

爛鉱石は一個金貨一枚が基本的な売値だが市場に出回らないので依頼という形を取ったようだ。

町から徒歩一時間くらいの山だった。

空を飛び二十分ほどで到着。

それから六時間ほど探索したが運よく見つけたのは二個だけだった。

魔物は弱いが沢山いるためかなり疲れてしまった。

41日目

学校、今日は錬金術と薬学の授業だった。

錬金術では体力回復薬を、薬学では薬草と毒草の見分け方など基本的なことを学んだ。

そういえば俺のことを書いたことが無かったな。

地球と言う星の日本と言う国で生まれてイギリスと言う国で高校に通っていた。

もちろん普通の学校ではなく魔法、それも錬金術について学ぶ場所だった。

こんな世界に適應できたのも担任教師のおかげ。ひいては錬金術学院のおかげ。

45日目

退屈な日常を謳歌していた。

お金をこつこつ貯めて友達と遊んで。

幸せだった。

そういえば最近吐き気が酷い。

吐き気止めを飲んでも中々よくなならない、嫌な予感がした。

47日目

昨日は大事を取って休んでいた。

保険医の先生の紹介で病院に行くことにした。

もちろん吐き気の件である。

48日目

先生の機転で蓋のついたスティック状の医療品を使うことに。

蓋を外した先端に尿をかけて閉める。

しばらく待つて検査結果を聞こうとしたらまた明後日来るように言われた。

50日目

二日間ろくに睡眠も食事も取れずにいた。

それも今日で終わるだろうと思った。

でも動悸が止まらない。

吐き気、蓋のついたスティック状の物。

何か思い出しかけている……何か。

52日目

検査結果……妊娠中。

いわれの無い恐怖に襲われた。

昨日は何も書かずに寝てしまった。

もし私に生む気があれば国は全面的に支援してくれるらしい。

ある一定の年齢以下の女性が妊娠もしくは出産した場合、

生む気があれば支援する法律があると言っ。

58日目

生むことにした。

よくよく考えれば自業自得なのだ責任は取るっ。

生むことになったら、託児所などで働くことが決まっている。

ただでさえ大変な子育て、少しでも子供の世話に慣れておいたほうがいいとのこと。

休日は託児所と産婦人科を行き来することに。

60日目

所持金は金貨八枚、銀貨二十枚、銅貨六十六枚である。

当面の目標は子育てを学ぶこと。

楽しみが増えた気がした。

一年目パート2（後書き）

だーくまたーはまたこんど



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5357/>

---

僕たちの六年計画。

2010年10月9日23時49分発行